

時代によって、市長によって、変わってきた市政

平野喜八郎市長時代（昭和 48 年～平成 9 年）

平野氏が市長就任時 8 万 5 千人ほどの人口が、辞任時には 13 万 4 千人となるなど、名古屋のベッドタウンとして人口が急増した時代でした。人口が増えることで、学校や地域の集会場などの施設や道路を建設する必要も生まれ、市役所業務が増えることにより職員も増えました。ゴミ・し尿処理も増え、加えて下水道の整備もスタート（昭和 58 年度）するなど、多くの施設・インフラ整備が進められた時代でした。バブル景気～バブル崩壊の期間であり、いわゆる「箱物行政」時代とも呼ばれ、この頃に増えた借金は施設建設によるものが多いです。

平成元年以降につくられた主なものは、航空宇宙博物館（約 130 億円／用地・周辺整備含む）、産業文化センター（約 80 億円）、市民プール（約 37 億円）、福祉の里（約 37 億円）、市民球場・勤労青少年グラウンド（現在の総合運動公園）（約 34 億円）、図書館（約 30 億円）、クリーンセンター（約 23 億円）、スポーツ広場（約 17 億円）など。

森真市長時代（平成 9 年～平成 25 年）

バブル崩壊後の「失われた 20 年」といわれた日本低迷期の真ただ中にあり、同時に高齢社会（平成 7 年）から超高齢社会（平成 19 年）になった時代でもありました。市役所を経営する上で、扶助費（高齢者・障がい者・生活困窮者などへの支援に使われる経費）・人件費・公債費（借金返済）が増え始め、政治にも方向転換が求められる時代でした。行財政改革が進められ、市役所の人件費については 16 年の間で、年間 23 億円以上、職員数は 278 人の削減が進められました。

平成 13 年度より臨時財政対策債、平成 16 年以降に合併特例債という地方が国に肩代わりするような起債ができて、市の借金額増加への影響が出はじめました。

つくられた主なものは、各務原大橋と那加小網線道路（約 123 億円）、新北清掃センター（約 109 億円）、小中学校耐震化（約 88 億円）、鵜沼駅周辺整備（約 62 億円）、学びの森（約 32 億円）、各務野自然遺産の森（約 25 億円）、リサイクルセンター（約 22 億円）、火葬場（約 17 億円）、給食センター（約 14 億円）、那加メインロード（約 13 億円）、中山道鵜沼宿整備（約 12 億円）、特別支援学校（約 10 億円）など。

浅野健司市長時代（平成 25 年～）

日本が人口減少社会に入り、社会保障の担い手が減っていく時代になります。負担のあり方を考え直すとともに、市町村間における若い世代の獲得合戦の時代になりました。子育て世代・働く世代にとって魅力あるまちづくりに力を入れる政策が注目されます。

つくられた主なものは、小中学校教室冷暖房設備（約 25 億円）、総合運動公園（約 14 億円・見込み）、日野岩地大野線（市道部分／約 12 億円・見込み）、市民会館・文化ホールリニューアル（約 11 億円・見込み）、鵜沼サービスセンター（約 7 億円・見込み）、川島サービスセンター（約 5 億円・見込み）など。（森前市長からの引継ぎ分もあります）

《新年互礼会のご案内》

◎ 平成 29 年 1 月 8 日（日）13 時～16 時

※時間内のいつご参加いただいても結構です。

◎ 後援会事務所（池戸ミシン） ◎ 会費 100 円

お問合せ先は、371-2749（後援会事務所）まで



池戸一成 後援会 会報

しぶがき通信

新年号

発行日：平成 29 年 1 月
発行者：池戸一成後援会事務所
各務原市蘇原柿沢町 1-15
TEL：371-2749
H P：http://ikedo.info/

あけましておめでとうございます。

今年も「開かれた市政」をテーマに頑張っていきます。

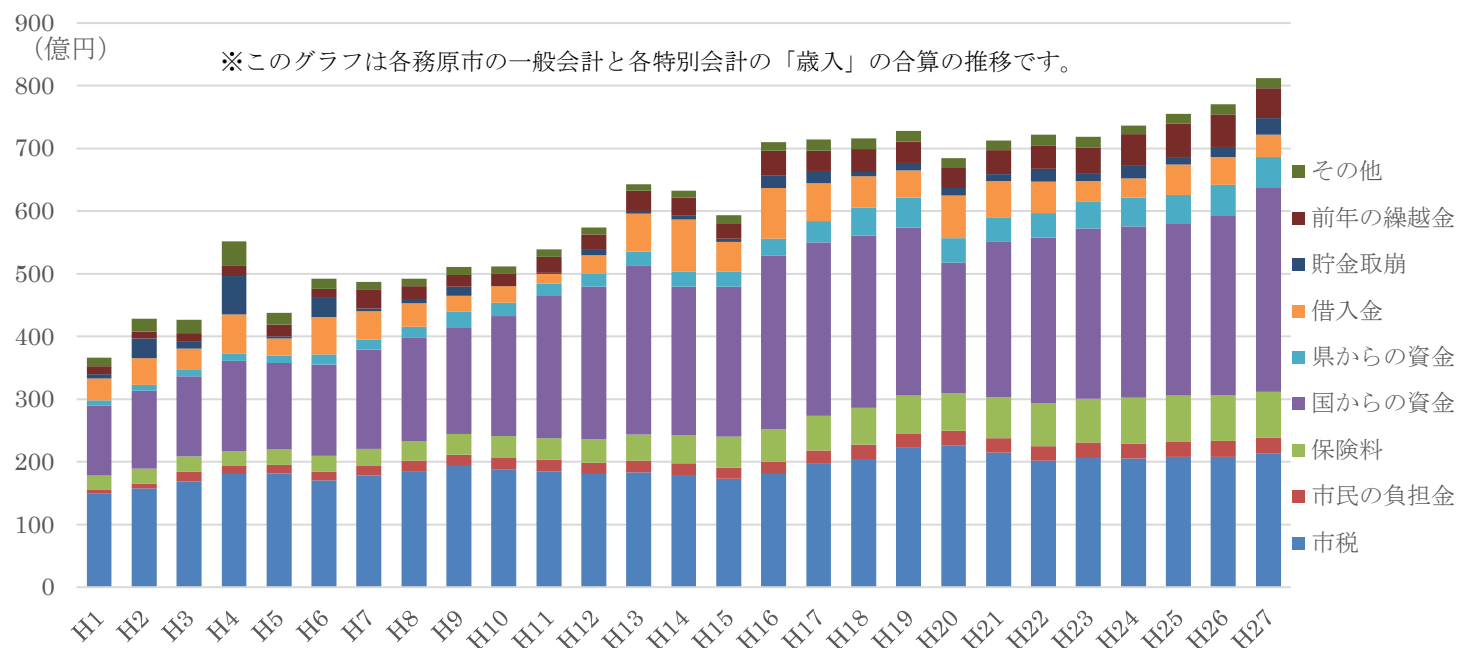


今回は私のテーマであった「決算から見る各務原市の歴史」（平成元年～27 年分）がまとまりましたので、レポートいたします。各務原市創立時（昭和 38 年）からの決算も調査・研究中です。

過去の決算書からデータを拾い出して、独自の考え方で事業を分類し、「誰のために、何のために使われたか？」が少しでもわかりやすくなるように計算し直しました。

池戸一成

決算から見る各務原市の歴史（平成 1～27 年度）「市の財源は?!」～歳入編～



「扶助費は増えているが、市税収入は増えていない・・・」

裏面の～歳出編～を見てみると、高齢者・障がい者・生活困窮者などへの支援に使われる経費（扶助費）や高齢者の医療費が年々増えていることがわかります。これに対して、市税（住民税・固定資産税などの市民から直接市に入る税）の収入はあまり増えていません。これを埋め合わせするために国からの資金が増えてきており、これが国の財政を苦しめる原因のひとつとなっています。いわゆる社会保障制度をどのように改革していくのか、誰がどのように、足りない経費を負担をしていくかを考え直していかなければならないでしょう。

「各務原市の 4 大公園の整備費は？」（裏面も参照ください）

各務原市 4 大公園の整備にかかった費用は以下の通りです。土地取得費も含まれます。市民公園は平野市長時代に、他は森市長時代にできたものです。

市民公園	各務野自然遺産の森	学びの森	河跡湖公園
約 22.9 億円	約 24.7 億円	約 31.8 億円	約 5.8 億円

各市長時代に地域の公園整備などに充てられた費用の平均年額の比較は以下の通りです。

平野市長時代（H1～H8 の分）	森市長時代（H9～H24）	浅野市長時代（H25～H27 の分）
約 2 億円（1,600 円／市民 1 人）	約 3 億円（2,000 円／市民 1 人）	約 1 億円（700 円／市民 1 人）

決算から見る各務原市の歴史(平成1~27年度)「何に使われたか?!」～歳出編～

